

市第203号議案 補正予算説明資料

市民・文化観光・消防委員会資料
平成27年2月16日
消防局

1 歳入・歳出関係

款 項 目	補正前の額	補 正 額	計	補 正 額 の 財 源				節		説 明
				特 定 財 源			一 般 財 源	区 分	金 額	
				国県支出金	市 債	そ の 他				
14 消 防 費	39,148,255	483,000	39,631,255	△ 21,128	532,000	-	△ 27,872			
1 消 防 費	39,148,255	483,000	39,631,255	△ 21,128	532,000	-	△ 27,872			
3 警 防 活 動 費	1,209,956	-	1,209,956	-	22,000	-	△ 22,000			災害情報画像伝送システム更新費 (起債充当率の変更に伴う財源更正)
6 消 防 団 費	1,417,330	-	1,417,330	△ 15,000	15,000	-	-			器具置場建設費 (県補助事業の認証減に伴う財源更正)
7 消 防 施 設 費	4,223,994	483,000	4,706,994	△ 6,128	495,000	-	△ 5,872	13 委 託 料	447,330	消防庁舎建設費 (工事費の減に伴う補正) △73,000
								15 工 事 請 負 費	77,126	消防車両購入費 (車両購入費の減に伴う補正) △42,000
								18 備 品 購 入 費	△ 42,000	防火水槽整備費 (国庫補助事業の認証減等に伴う財源更正)
								19 負 担 金 補 助 金 及 び 交 付 金	544	消防・救急デジタル無線整備費 (工事費の減に伴う補正) △55,000
										格納庫等改築事業費 (工事費の減に伴う補正) △37,000
										市民防災センター再整備事業費 690,000 (市民防災センターの早期整備に伴う補正)

2 繰越明許費関係

款	項	事 業 名	金 額
14 消 防 費	1 消 防 費	消防庁舎建設事業	129,000
14 消 防 費	1 消 防 費	市民防災センター再整備事業	690,000

市民防災センター再整備事業について

■再整備の目的

「自助・共助を学べる中核施設」として

「自分の命を守る」**自助意識**

「お互いに助け合う」**共助意識**の啓発と

その**行動を起こす**ことができる人を育成する場



よこはま地震防災市民憲章や自助・共助推進条例の理念を浸透させ、災害に強い横浜を実現

■再整備内容

展示室、訓練室、研修室の全面改修

2月補正
690,000千円

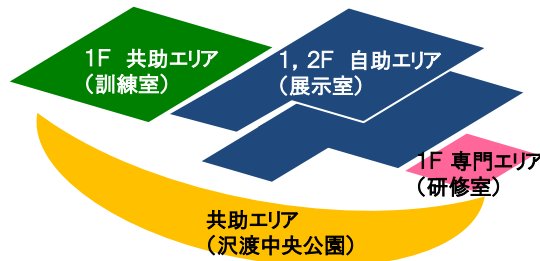
+

27年度予算
50,000千円

=

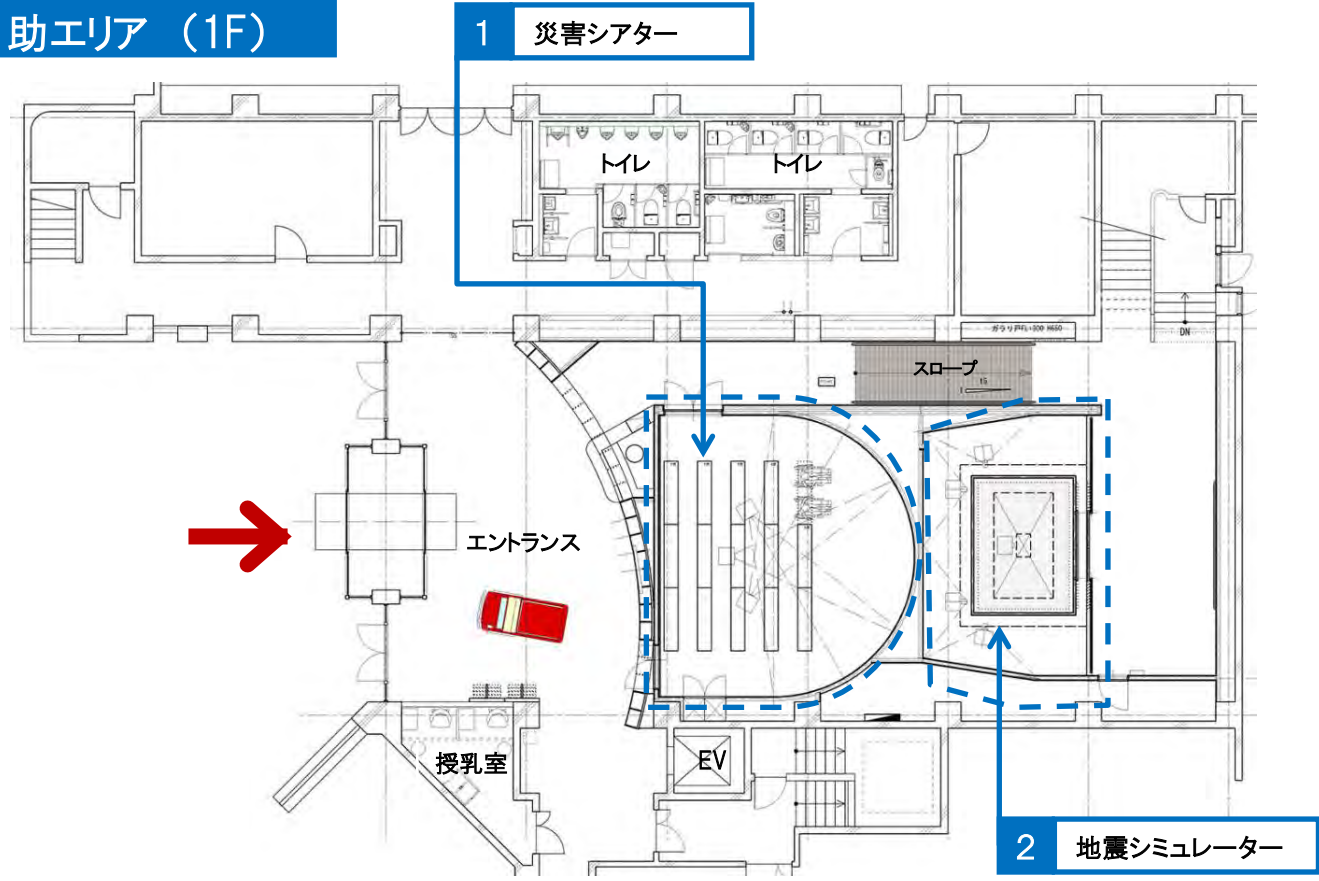
事業費全体
740,000千円

施設展開



自助エリア	共助(屋内)エリア	共助(屋外)エリア	専門エリア
自助行動を中心に、減災行動の必要性に気づき、学ぶ	自助体験を振り返るとともに、共助行動について学ぶ	実際の災害時にとるべき行動を実体験し、確実に身に着ける	より専門的な知識や情報を習得し、減災知識、行動力を高めていく
すべての来館者	主に団体	ニーズにあわせて	ニーズにあわせて

自助エリア (1F)



1 災害シアター

体験時間:10分 定員:45名



臨場感あふれるシアターで横浜に起こりうる災害を想像

- 複数のプロジェクターを使用した立体感のあるスクリーン構成
- 横浜の風景を使用し、災害が身近で起きた場合をイメージできる映像
- 照明・音響などを組み合わせることにより「災害の怖さ」を表現



2 地震シミュレーター

体験時間:3分 定員:15名

自分の住まいの地域、建物等の揺れや被害を具体的に体感

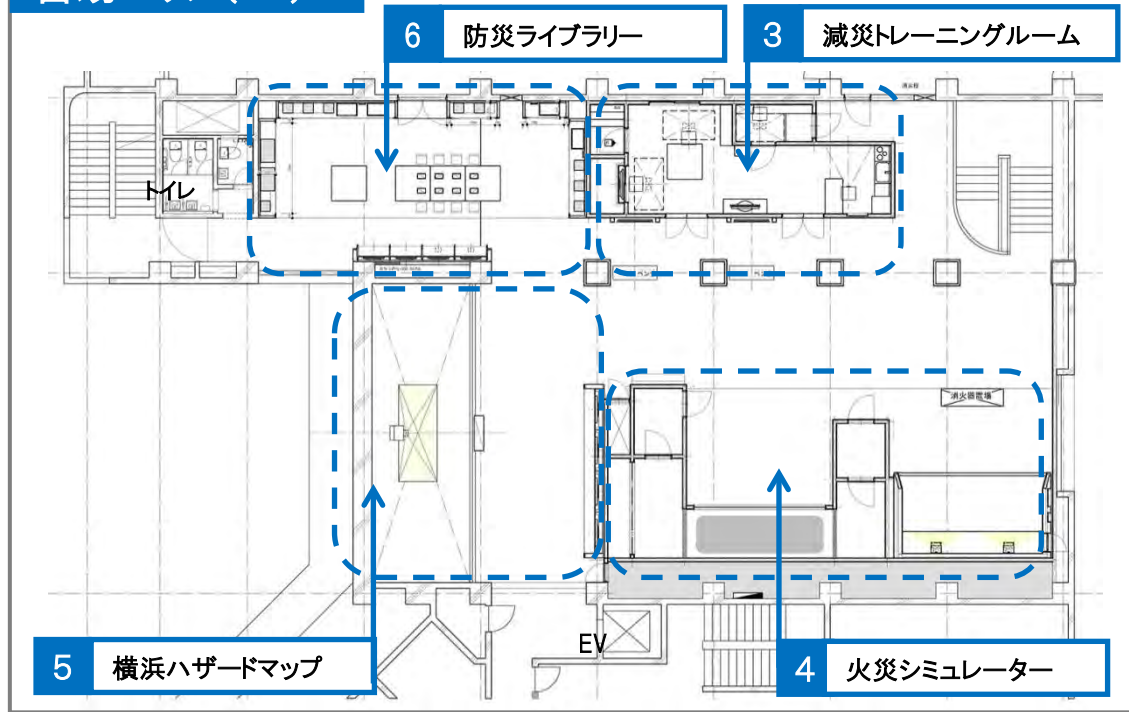
- 3次元振動、映像、音響の組合せで「地震」を再現
- 震度階ごとの揺れや過去の地震などを再現
- 映像・音響と振動の組合せパターンを複数設定することで、戸建住宅や超高層など、様々なシチュエーションを再現



- <映像コンテンツ>
- (1)低層(1~2階)
 - (2)中層(3~6階)
 - (3)高層(7~20階)
 - (4)超高層(60m以上)
 - (5)道路
 - (6)東日本大震災
 - (7)阪神・淡路大震災
 - (8)関東大震災
 - (9)想定地震



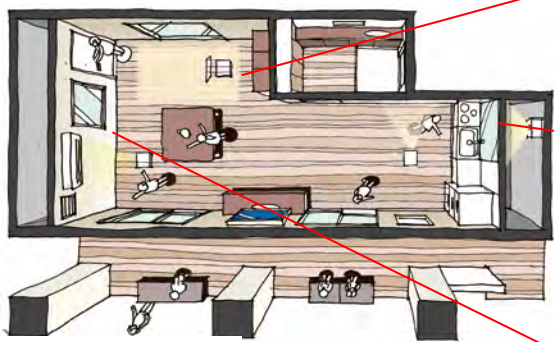
自助エリア(2F)



3 減災トレーニングルーム

体験時間:4分
定員:10名

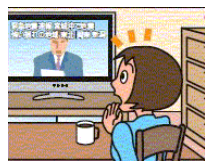
地震、風水害、火災発生から避難までの流れを体験し、身を守る行動を学ぶ



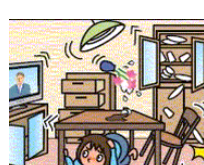
■体験の流れ

〈地震の例〉

テレビを見ていると緊急地震速報が流れる



照明が点滅し、家具などが揺れる音響の演出



壁にひびが入り、食器棚の扉が開き中の食器が散乱する(映像)



二次災害を防ぐようアナウンスがある



避難

〈風水害の例〉

雨が強くなり、雨音や風の音が大きくなる



テレビに大雨洪水警報(土砂災害警戒情報)のテロップが流れ避難が促される



窓の外の高から水が漏れ(映像)木のきしむ音響



土砂が崩れ、窓が割れて家の中へ土砂がなだれ込む(映像)



避難

■室内の演出例



4 火災シミュレーター

体験時間:2分
定員:6名

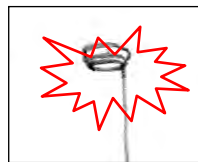
火災発生時の行動を実際に体験して学ぶ

■体験の流れ

【体験前ガイダンス】体験方法の説明



住宅用火災警報器が鳴る!



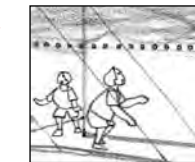
「火事だー!」と大声で周囲に伝える



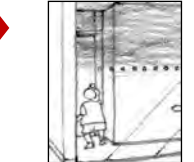
火災の「熱」を体感 消火器で消火



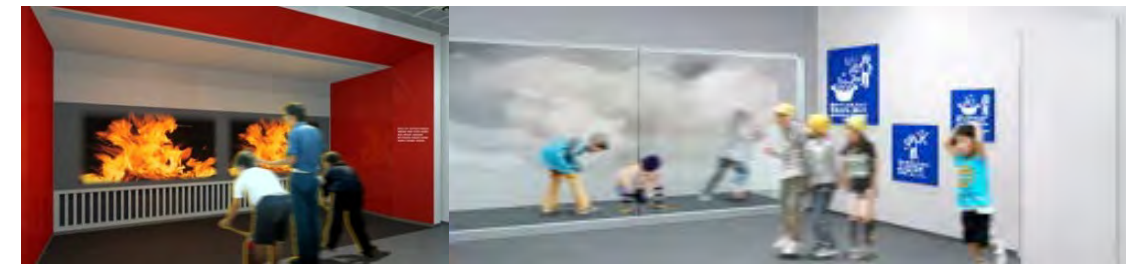
煙の特性を確認しながら、低い姿勢で避難



防火シャッター脇の避難ドアから逃げる



【体験後ガイダンス】正しい行動について



5 横浜ハザードマップ

所要時間:8分
定員:30名

災害発生時、自分の街でどんなことが起きるのか、想定される被害やその特性を学ぶ



- ハザードマップ(洪水、津波浸水、土砂災害等)をプロジェクションマッピングで表現
- 横浜の地形の変遷
- 津波、火災延焼シミュレーション

6 防災ライブラリー

所要時間:8分
定員:30名

防災・減災に関する最新の情報や備えるための方法を学ぶ



- 市や防災関係機関等の最新の取組や各種制度などの展示
- 防災グッズや身を守るためのヒントなどの解説
- 緊急時における情報受伝達の体験

共助(屋内)エリア

自助エリアの体験を振り返るとともに訓練室の大空間を活用して共助を学ぶ

●避難所運営訓練

- ワークシートを活用し、体験の振り返り
- 避難所運営、要援護者支援などの訓練
- 防災ゲームや応急手当など、共助に関するワークショップ
- 避難所生活のヒントや消防設備などの展示

共助(屋外)エリア

沢渡中央公園を活用した実践的な体験

●放水体験

- 実際の炎の熱を体感しながら行う消火訓練
- 地域防災拠点の資機材を使った救助やトイレ設置等の訓練
- 地域防災拠点の資機材取扱い

専門エリア(研修室)

より専門的な研修等による知識の習得

- 防災の指導者のためのセミナー
- 消防団員、市職員等のための図上訓練やワークショップ
- 防災関係者の研修会や情報交換

●専門家によるセミナー

●災害図上訓練(DIG)

運営面の工夫

- 展示・教育内容の陳腐化を防ぎ、最新の防災教育・情報等を提供し続けるため、他局、防災関係機関、民間等との連携体制の確保
- 多くの市民の来館を促すための仕組みづくりや、広報手段の充実
- おもてなしの心をもって来館者に接し、誰でもわかりやすい防災・減災教育を行うことができるスタッフの育成

スケジュール

3月	契約
4月	展示施設製作・工事
28年2月	
3月	開館準備
4月	運用開始